

春岡村の伝説

～このあたりにもあるハクビシンやアライグマ その2～

《アライグマ捕獲騒動》

何年か前のゴールデンウィーク、丸ヶ崎新田では田植えの真っ最中です。そんな時に農家の納屋にアライグマが現れ、出入り口のシャッターの戸袋に逃げ込み出られなくなってしまいました。保健所に電話すると「それは生きてますかー？死んでますかー？」と聞かれました。戸袋からだらりとたれたしっぽをつつくと、暴れるので「生きてますー」と返事すると、生きていたら動物愛護協会に連絡して捕獲してもらい、死んでいたら保健所が引き取りにいきます、ということでした。ただ連休が明けてからでないと行けないので、それまでそのままにしておいて、という事でした。それで毎日シッポをつついて生死を確認しますが野生は強し、飲まず食わずでもしぶとく生きて、結局動物愛護協会に捕獲してもらいました。納屋を締めきっての大捕り物だったそうです。

ところで、スイカなどがアライグマやハクビシンの被害に遭うと、農家の人は「もうスイカは作らない！」と言い放ちます。というのも、奴らは頭がいいので、一度やられた畑は翌年も狙われるのだそうです。このあたりでアライグマやハクビシンがふえたのは、綾瀬川の対岸の岩槻区馬込あたりの森が宅地開発されたときに、丸ヶ崎新田や深作あたりでたくさん見かけるようになったという話です。棲みかを失って綾瀬川を泳いできたり、橋を渡ってきたのでしょうか。



ハクビシン



アライグマ

(東三番街 平山由喜)